福島のお母さん

umaretedattekuretekuretekaasantou 京都のお母さんより

大切に育ててきた
自分の事は
いつも横に置いて
どんな時も
愛してきた
その愛を
あなたの母に
したいだけ
どうか母である
あなたの声を
どうか母である
その直感信じて
私達きいます
あなたは一人じゃない
あきらめないで

私たちが勉強したこと

レントゲンと比較するナンセンス

一年中そこにいたら、438mSvを浴びることになる。

- レントゲンを毎時間ごとに毎日撮る人がいるだろうか？
- この作業員の最大値が250mSvに上げられた。

よく見かける表です。　でもよーく見てみて下さい。
0.05MSVは、4本のレントゲン1枚と同じ。でも　これを
1年中365日浴びると、438MSV浴びることになるのです。
1時間おきに毎日レントゲンをとっている状態を想像してみて下さい。
メディアでは大丈夫です、大丈夫ですと言い続けています。
本当に大丈夫なのでしょうか？

＊ 福島の お母さん へ＊

3月11日以後、愛する子どもたちを守るために、本当に必死でがんばっておられることと思います。
お体、大丈夫ですか？　気の休まる暇もない日々をお過ごしのことと思います。
本当に、本当に子どもたちを守るために、今日、自分に何ができるか？を毎日毎日考え、自分にできること　微力ながら続けています。
少しでもお役に立ちたい思いでいっぱいです。

福島では、母として子どもたちを守るために必要な情報が受け取れる環境にいらっしゃいますか？
テレビ・新聞以外の情報は、手に入りますか？
私は、3月11日以後の新聞、テレビの報道には、疑問や不安を感じることが多いです。
盛んに繰り返される「直ちには影響が出るレベルではない…」「微量だから大丈夫」という言葉に、疑問と不安を感じます。
「じゃあ、5年後、10年後は本当に大丈夫なのか？」

3月24日に、全国168団体が共同で、政府に
「直ちに影響が出るレベルとは、どのようなレベルか。
また その影響とは どのような人体的影響なのか 説明して下さい」
と 公開質問状を出しました。私たち、母親グループも名を連ねました。
この答え 知っておられますか？
3月28日に 厚労省は、

- 「直ちに影響が出るレベル」がどういうものか、厚労省は知らない。
- 食品の暫定規制値では、後になって健康被害が出るかもしれない
- 外部被ばく、内部被ばく全体についての被ばく管理はどこが管轄しているか 知らない

と 答えました。
この答えを知って、母として愕然としました。
何をもとに、「安全です。」「大丈夫です。」と毎日報道されているのか…

また、今まで、年間の被ばく量は、1ミリシーベルトまでとなっていたのを、
年間 20ミリシーベルトまで引き上げようとしているのを知り、
一体どうやって子どもたちの健康を守るのか、守れるのか
愕然としました。

福島では、学校も再開されたと聞きました。
毎日、学校へ子どもたちを送り出しながら、不安でいっぱいのお母さんもたくさんいらっしゃることと思います。
子どもたちを、今すぐにでも もっと安全な土地へ避難させてあげたくても、色々な問題があるのだと思います。
母として、子どもたちの笑顔、子どもたちが生き生き生活する日々を願ってやまないことと思います。
一人でも多くの子どもたちが、もっともっと安全な場所で生活できるように、自分にできることイつでも多く見つけて動いていきたいと思います。
署名集めます。　福島県の教育委員会やいろんなところに電話します。周りの人に伝えます。デモにも参加します！
母親どうし繋がって、子どもたちの未来を守っていけたらと思っています。

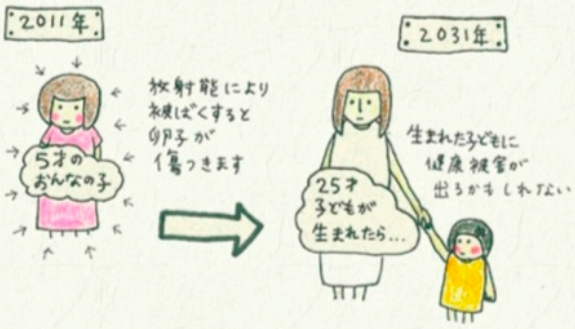
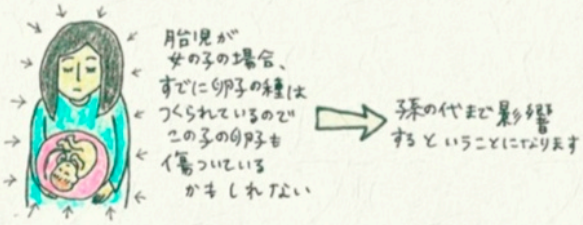
（たみ）

飛んでくる放射能での被害

飛んでくる放射能で、特に症状が出やすいのは、放射性ヨウ素による甲状腺異常です。
体内のヨウ素は70～80%が甲状腺にあるため、放射性ヨウ素が体内に入ると、
甲状腺に集まってやがて甲状腺ガンを引き起こします。
特に若い人の発がん性が高くなります。

しかしウクライナ、ベラルーシの
小児甲状腺がんの発生率は・・・

- チェルノブイリ原発事故時の放射性ヨウ素による体内被曝により、若年齢者の甲状腺がん患者が増え続けている。

このグラフがどういう事かと言うと、放射能を浴びた人だけがガンになるのじゃなくて、原発事故が起きた時に生まれてない子どもたちまでもが亡くなっている現状を表してます。

例えば